

2008年7月28日浅野川はんらん水害調査報告

Report of the Damage Investigation of the July 28, 2008

Flood Disaster of Asanogawa River, Kanazawa City

金沢大学浅野川はんらん水害調査団

Kanazawa University

は じ め に

平成 20 年 7 月 28 日に発生した浅野川氾濫に伴う水害は、広範囲に各種の大きな被害をもたらしました。石川県、金沢市などの行政機関や被災地域においても、復旧・復興のための懸命の取り組みがなされました。金沢大学においても「金沢大学浅野川はんらん水害調査団」を設け、平成 20 年 8 月 29 日には、速報会を行うとともに、その後、学術的な立場から調査研究を進めました。

今回の水害やその復旧・復興には、金沢大学の環境デザイン学類や地域創造学類が対象とするテーマが多くみられるため、メンバーは両学類を担当する教員が担当しています。調査研究テーマは、河川・異常気象、道路・交通・避難、橋梁、ライフライン、廃棄物、建築物、歴史的建築・町並み、コミュニティ・ボランティア、情報システムなどを対象としています。

なお、今回のように、学術的な立場から調査研究を進め、報告をとりまとめる目的として、以下のものがあげられます。

- ① 専門家の視点から問題点を整理し、今後の教訓とする。
- ② 災害事実を記録にとどめ、後世に伝える。
- ③ 市民の防災意識を高めるための情報を提供する。

また、具体的な研究課題としては、以下のようなものがあげられます。

- ①いかに想定外の水害であったか？：気象状況、降水量の経時変化と河川水位
- ②短時間局地豪雨に対する気象情報と防災情報の伝達はどうあるべきか？：情報伝達、避難指示等はいかになされたか、および、今後への提言
- ③ハザードマップと実被害の対応の検証
- ④歴史的建築や町並みの集積地区を襲った水害
- ⑤都市中心部の高齢地区を襲った水害
- ⑥豪雨災害におけるライフライン機能障害
- ⑦豪雨災害における廃棄物問題
- ⑧道路、橋梁の損壊に伴う交通障害

本報告書は、上記の研究課題に必ずしもすべて明らかにできたわけではないが、これまでの研究成果について一応のとりまとめを行ったものである。

末筆ながら、調査研究や資料の提供にご協力いただいた行政機関や被災住民の方々に深くお礼を申し上げます。

2009 年 3 月

金沢大学浅野川はんらん水害調査団

代表 川上光彦

調査団構成

代表	川上光彦	(金沢大学理工研究域環境デザイン学系長)
幹事	宮島昌克	(同 教授)
委員	北浦 勝	(同 教授)
	同 高山純一	(同 教授)
	同 松本樹典	(同 教授)
	同 近田康夫	(同 教授)
	同 池本良子	(同 教授)
	同 伊藤 悟	(同 人間社会学域地域創造学系教授)
	同 神谷浩夫	(同 教授)
	同 眞鍋知子	(同 准教授)
	同 沈 振江	(同 理工研究域環境デザイン学系准教授)
	同 中山晶一郎	(同 准教授)
	同 小林史彦	(同 講師)
	同 榎田真也	(同 講師)
	同 池本敏和	(同 助教)
	同 谷口健司	(同 助教)

目 次

1. 降水および気象状況の概況（谷口健司）	1
2. 出水および浅野川流域の被害概要（榎田真也）	9
3. 地盤災害（松本樹典）	14
4. 建物被害の概要（北浦 勝，池本敏和）	23
5. 歴史的建築・町並み（川上光彦，小林史彦）	29
6. ライフライン被害（宮島昌克）	40
7. 橋梁被害（近田康夫）	46
8. 災害廃棄物の発生状況とその対策（池本良子）	48
9. 避難情報提供の実態とその課題（高山純一，中山晶一郎）	55
10. 災害情報収集・共有のための携帯電話 GIS の構築 （沈 振江，伊藤 悟）	66
11. 町会組織の機能と災害ボランティアの役割 （眞鍋知子，神谷浩夫）	75
付録：「金沢大学 浅野川はんらん水害速報会」報告	81